

表5 引張強さ規格

標準線径 (mm)	引張強さ (N/mm ²)			
	ハーキュリー	SUS304-WPB	SWP-A	SWP-B
0.10	2550～2840	2150～2400	2790～3090	3090～3380
0.12			2750～3040	3040～3330
0.14			2700～2990	2990～3290
0.16			2650～2940	2940～3240
0.18			2600～2890	2890～3190
0.20			2600～2840	2840～3090
0.23	2450～2750	2050～2300	2550～2790	2790～3040
0.26			2500～2750	2750～2990
0.29			2450～2700	2700～2940
0.32	2350～2650	1950～2200	2400～2650	2650～2890
0.35			2350～2600	2600～2840
0.40			2300～2550	2550～2790
0.45			2260～2500	2500～2750
0.50	2210～2500	1850～2100	2210～2450	2450～2700
0.55			2160～2400	2400～2650
0.60			2110～2350	2350～2600
0.65			2110～2300	2300～2500
0.70			2060～2260	2260～2450
0.80	2110～2400	1750～2000	2010～2210	2210～2400
0.90			1960～2160	2160～2350
1.00			1910～2110	2110～2300
1.20			1860～2060	2060～2260
1.40	2010～2300	1650～1900	1770～1960	1960～2160
1.60			1720～1910	1910～2110
1.80			1720～1910	1910～2110
2.00	1860～2160	1550～1800	1770～1960	1960～2160
2.30			1720～1910	1910～2110
2.60	1810～2110	1450～1700	1720～1910	1910～2110
2.90			1720～1910	1910～2110

備考：中間にある線径については、それより大きい標準線径の値を用いる。

4-4.耐食性

ハーキュリー及びSUS304を伸線加工後、最適低温焼なまし処理した線材についてJISで定められている硝酸浸漬試験，硫酸浸漬試験，塩化第二鉄浸漬試験及び塩水噴霧試験を行った結果を表6に示します。

表6 耐食性試験結果

条 件		裸 材				Niめっき材
		硝 酸 浸漬試験	硫 酸 浸漬試験	塩化第二鉄 浸漬試験	塩水噴霧試験	
		腐食減量(g/m ² ・hr)			発錆面積率(%)	
伸線のまま	ハーキュリー	0.50	360	21	5～25	5～25
	SUS304	0.29	204	23	0～5	5～25
低温焼なまし	ハーキュリー	0.56	443	23	25～50	25～50
	SUS304	0.34	288	26	5～25	25～50
備 考		65% <chem>HNO3</chem> 沸騰×48hr JIS G 0573	5% <chem>H2SO4</chem> 沸騰×6hr JIS G 0591	6% <chem>FeCl3</chem> +1/20N <chem>HCl</chem> 35℃×24hr JIS G 0578	5% <chem>NaCl</chem> 35℃×240hr JIS Z 2371	

低温焼なまし条件 ハーキュリー：350℃×30分、SUS304：400℃×30分

ハーキュリーの耐食性は、SUS304に比べてC、Cr及びNiの含有量が異なることにより若干差が認められます。

しかし、一般にばね材に多用されるNiめっきを施した場合の耐食性はSUS304と同等です。